**乙部町担い手育成総合支援協議会における実証ほ場の**

**新規作物の導入の実証・展示結果及び今後の**

**再生促進計画について**

乙部町は、農業と水産業が基幹産業と位置づけ、農業振興政策に取り組んできたところであるが、農家の高齢化・担い手不足さらには農産物の価格低迷等により農業は非常にきびしい状況となっている。

高齢化及び離農に伴い耕作放棄地が増加しているなか、規模の小さな兼業農家は、規模拡大の意欲は少なく、大規模農家にあっても従来からのだいこん・にんじんが安定した収入に結びつかず、馬鈴薯及び大豆に偏った作付け体系になっているところ。

これらの状況を打開するため、収益性の高い作物の導入及び適正な輪作体系を確立するため土地利用型野菜の作付けを目指しハウス及び露地での実証を行い地域に適した作物の導入を行うこととした。

１　実証栽培計画

（1）ビニ－ルハウス

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　度 | 実証作物 | 試験の内容 |
| 平成22年度 | スナップエンドウ | 品質比較試験 |
| ほうれんそう | 品質比較試験 |
| ホワイトアスパラガス | 慣行栽培 |
| 平成23年度 | セルリ－ | 無加温栽培・加温栽培 |
| えだまめ | 無加温栽培・加温栽培 |
| ホワイトアスパラガス | 無加温栽培・加温栽培 |
| 平成24年度 | 長ネギ | 無加温栽培・加温栽培 |
| ニンニク | 無加温栽培・加温栽培 |
| ホワイトアスパラガス | 無加温栽培・加温栽培 |

（2）露地

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　度 | 実証作物 | 試験の内容 |
| 平成22年度 | ハトムギ | 植栽密度・施肥試験 |
| 大豆 | 品質比較試験 |
|  |  |
| 平成23年度 | ブロッコリ－ | 耐暑性品種比較試験 |
| 南瓜 | 長期貯蔵品種比較試験 |
|  |  |
| 平成24年度 | 長ネギ | 植栽検討試験 |
| ニンニク | 植栽密度・施肥試験 |
|  |  |

２実証栽培計画の変更

　　平成22年度の実証結果等を踏まえて再検討の結果、ビニ－ルハウス及び露地栽培の作付け計画を変更しながら地域での適作作物を検討する。

　　乙部町役場が策定する農業再生プランとの連携をしながら作物の選定を行った。

（1）ビニ－ルハウス

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　度 | 実証作物 | 試験の内容 |
| 平成22年度 | スナップエンドウ | 品質比較試験 |
| ほうれんそう | 品質比較試験 |
| ホワイトアスパラガス | 慣行栽培 |
| 平成23年度 | カリフラワ－ | 無加温栽培・加温栽培 |
| さつまいも | 無加温栽培・加温栽培 |
| ホワイトアスパラガス | 無加温栽培・加温栽培 |
| 平成24年度 | さといも | 無加温栽培・加温栽培 |
| ブロッコリ－ | 無加温栽培・加温栽培 |
| ホワイトアスパラガス | 無加温栽培・加温栽培 |
| 平成25年度 | グリ－ンアスパラガス | 無加温栽培・加温栽培 |

（2）露地

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　度 | 実証作物 | 試験の内容 |
| 平成22年度 | ハトムギ | 植栽密度・施肥試験 |
| 大豆 | 品質比較試験 |
| 大豆（たまふくら） | 品質比較試験 |
| 平成23年度 | ブロッコリ－ | 耐暑性品種比較試験 |
| 小豆 | 長期貯蔵品種比較試験 |
| 大豆（たまふくら） | 品質比較試験 |
| 平成24年度 | ブロッコリ－ | 耐暑性品種比較試験 |
| 馬鈴薯（北あかり） | 植栽密度・施肥試験 |
|  |  |

３　乙部町の主栽培作物は、稲作のほか馬鈴薯、南瓜、食用ゆり根、にんじん、スイ－トコ－ンであったが、実証結果を踏まえてグリ－ンアスパラガス、ブロッコリ－が特に有効な作物であることがわかった。

1. アスパラガス

　　春眼を3月下旬から収穫し、後に数本の眼を立茎させ、その養分で新たな眼を9月下旬まで栽培する。

1. ブロッコリ－

　　3月中旬から育苗を行い6月下旬から11月上旬まで収穫する。

　※ブロッコリ－採用理由

　１　夏場の最高気温が低い気候に適している。

　２　消費者の食の安全・安心から国産への需要が高まっている。

　３　軽量で高齢者及び女性でも収穫作業が安易である。

　４　契約栽培に適しており、安定した収入が保証される。

４　販路の拡大

　国内大手の農産物専門仲卸商社と連携し、地域農家との契約栽培を行う。

輪作体系の確立のため、ブロッコリ－、スイ－トコ－ン、カボチャを契約栽培作物とする。

５　輪作体系

　ブロッコリ－⇒大豆⇒スイ－トコ－ン⇒カボチャ⇒馬鈴薯⇒ブロッコリ－⇒

の輪作体型とすることで連作障害を回避する。

６　実証ほ場の展示

　実証栽培計画を踏まえて、町内外の複数農家に展示したほか、直接意見を徴収し、

実証計画の見直しに反映した。

７　実証結果及び現状

　別紙のとおり

８　乙部町実証ほ場の効用

　乙部町の耕作放棄地の解消経過及び結果は、地域における５町の耕作放棄地対策協議会の設立承認につながり、そのうち乙部町での平成23年度の耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の実施のほか厚沢部町及び上ノ国町での耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の実施に繋がった。

　地域の耕作放棄地対策協議会名

・江差町農業振興対策協議会

・上ノ国町耕作放棄地対策協議会

・厚沢部町担い手育成総合支援協議会

・今金町地域担い手育成総合支援協議会

・せたな町農業担い手育成総合支援協議会